



どんど焼き(みはるの丘浮島)

## 「施設における看取りケアの現状と今後の課題」の特集について

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

法人の広報誌『はるかぜ』で2回にわたり、はるかぜ座談会「施設における看取りケアの現状と今後の課題」の特集を組ませていただきました。

これまで法人の広報誌で施設での看取り介護を本格的に取り上げたことはありませんでした。今回このような企画を組ませていただいたのは、平成31年3月に始まった静岡県「人生の最終段階における医療・ケアの在り方」検討会に、介護老人福祉施設を代表し委員として参加したのが切っ掛けです。この検討会は県内の各界を代表する13名の検討委員からなり、平成31年3月から令和3年3月まで計5回検討会を開催し、これに並行して3回のパネルディスカッションも開催され、最後に『人生100年時代における自分らしい晩年そして末期のために―提言―』という報告書を出されました。委員長の静岡県文化芸術大学学長の横山俊夫先生や県立総合病院院長の田中一成先生が中心となり、看取りの「静岡モデル」構築を目指したもので、大変素晴らしいレベルの高い報告書となっています。横山先生は「2年という短い検討期間でしたが、医療、介護、行政、NPO、ジャーナリズム、文化研究」といった諸分野にまたがる対話の産物

と述べています。この報告書の提言が県民の皆様をはじめ、医療介護従事者や行政関係者に幅広く理解され、普及されていくことが切望されます。

この検討会に参加して、私は、法人が40年以上に及んで実施してきた特別養護老人ホームでの看取り介護の基本的考え方、実際の取り組みの内容を一度しっかりと整理し、地域住民の皆様をはじめ、施設入居者とその家族、医療介護関係者、行政関係者などに知っていただくことが改めて必要と考えたところです。私たちが目指してきたことは、施設での看取り介護を家での生活の継続・在宅生活の延長として実現していくこと、家族の参加・協力による施設での看取り介護の充実、積極的な延命治療ではなく、人間としての生の尊厳を遵守した看取り介護であります。そこには同時に人間の生命の強さと素晴らしさを私たちに教えてくれるものです。

最後に、私が日々終末期のお年寄りや声を出せないお年寄りに対して心からの声かけをしているのは、そこに生命・命、からだの声を感ずるからです。これからも、からだの声を感ずり、人間の強さと素晴らしさを知る看取り介護を目指していきます。

最後に、私が日々終末期のお年寄りや声を出せないお年寄りに対して心からの声かけをしているのは、そこに生命・命、からだの声を感ずるからです。これからも、からだの声を感ずり、人間の強さと素晴らしさを知る看取り介護を目指していきます。

最後に、私が日々終末期のお年寄りや声を出せないお年寄りに対して心からの声かけをしているのは、そこに生命・命、からだの声を感ずるからです。これからも、からだの声を感ずり、人間の強さと素晴らしさを知る看取り介護を目指していきます。

令和4年度の法人役職職員合同研修会は、昨年度に引き続きオンラインにて開催され、石川理事長より令和4年度の法人の基本方針の報告がありました。

新型コロナの感染拡大は、令和4年に入っても収まる気配がなく、変異株オミクロン株の出現により再び感染爆発の様相を呈しております。こども園、事業所、高齢者介護施設などの福祉現場におけるクラスターの発生が全国で急増し、医療現場の逼迫が心配されています。静岡県内においても新型コロナの感染者が急増しており、保育園・小中学校の学校内感染や企業職場内感染・家庭内感染も多く見られようになってきました。春風会としては、施設内感染を防ぎ、利用者の命と職員・家族の生命を守る為にも、一昨年4月から数回にわたり春風会全職員を対象に独自の緊急事態宣言を発出し、利用者の命を守る行動をお願いしてきました。引き続き、職員の昼食休憩時における一定間隔の保持による飛沫感染の予防や、定時における換気の実施、手指消毒・マスク着用の徹底を職場内・家庭内においてもお願いしたいと思います。職員並びに職員家族の協力により、お蔭をもってこれまでのところ、法人内ではクラスター等の発生を出すことなく今日に至ることができました。

令和4年度は、法人としては新型コロナ感染症対策を更に強化しながら、法人経営中・長期計画を策定して新規事業を企画し、各種事業を実施していきたいと考えています。



オンラインによる理事長報告

## 施設における コロナ感染症 対策訓練風景



簡易陰圧装置の設置訓練



防護服の着脱訓練

- 令和4年度の重点目標
- ① 社会福祉法人として公共性・公益性という本質を遵守し健全な法人経営をしながら、地域福祉の推進と社会貢献活動の事業を積極的に展開していく。
  - ② 福祉教育の一環として、小学生を対象とした夏休み福祉体験学習を継続実施していく。
  - ③ 高齢者福祉・介護の分野では特養ホームに入居できない要介護1・2の高齢者をはじめ、一人暮らし高齢者や高齢者世帯の事業対象者や要支援1・2の高齢者を対象とするサービス付高齢者住宅・ケアハウス等を整備し、支援を必要とする高齢者の住まいの提供を検討する。
  - ④ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所及び低額・無料診療所を整備して、医療と福祉の総合化、医療・福祉の連携のもと地域包括ケアシステムの実現に向け検討を進めていく。



⑤ 人材確保・育成において、子育てしながら働く職員を経済的側面も含めて支援し、安心して子どもを産み育てていける職場環境を整えていく。また、職員に楽しみや居場所がある施設作りをする。更には伊豆地区における企業内保育所の整備、職員やEPA・技能実習生を対象とした社員寮の整備など住宅の提供も検討する。



企業内保育所ぼっぼ

⑦ 高尾園や障害者施設ではこれまでの福祉の枠に捉われず、新たな農福連携事業として、耕作放棄地での稲作、未利用園芸施設を借用しての障害者・高齢者の農業従事と農産物の直売所や軽食提供施設の開設について、また、障害者の共同生活ホームやグループホームの整備を検討する。

⑧ 高齢者の在宅支援事業では、機能訓練に特化したデイサービス、また、デジタル技術を活用したデイトレ・ICTリハの考えも取り入れ、デイサービスのメニューの多様化・充実、介護予防活動の見える化のソフト導入、法人独自の入浴サービスの復活、買い物外出・通院等の移送・移動支援など実施できることから進めていく。

⑨ 法人組織の在り方を検討し、施設機能の効率化と次世代職員の育成を推進する。各種手当の見直しを図り、頑張る職員への支援、キャリアアップ・能力主義、子育てと両立して働ける職場環境の整備を進めていく。

⑩ 地域介護力の向上と介護人材の発掘の為に、介護職員初任者研修事業と介護職員実務者研修事業を法人施設にて実施する。

⑪ 我が国の少子化・労働力人口の減少によって人材確保は、すべての産業において困難になる。外国人介護職員の確保・育成について、今後も、EPAによる介護人材の雇用の継続、定住外国人の雇用、海外からの特定技能・技能実習生の受け入れ等、積極的に取り組んでいく。また、外国人介護人材の増加に伴い、外国人介護人材の教育・育成マニュアルの作成と育成担当職員の配置をしていく。

⑫ 認定こども園では、特色ある取り組みの推進していく。伊豆市のこども園に子供を預けたいくなるような教育・保育環境やプログラムの開発と実施をしていく。



EPA介護士の入社式

今年度も新型コロナウイルス感染症予防を最優先の課題としながら、春風会の保育・介護・福祉のブランド力を更に高め、地域からの信頼と期待にこたえていき、春風会で働く職員一人ひとりが輝き、誇りと歓びと信念と自信、感謝の心を持って働くことができます。法人・施設にしていきたい。

⑥ 介護現場の生産性の向上・効率化の為に介護のIT化の研究、ロボット化・機械化の推進、介護の仕事の分業化の推進を図る。法人が実践してきた看取り介護をマニュアル化・テキスト化して、信頼される看取り介護を継続・充実させていく。



介護予防の取り組み  
ノルディックウォーク

# 令和4年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

令和4年度は、以下の5項目を重点項目として取り組んでまいります。(要点のみを抜粋)

## ① 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり

- ・利用者一人ひとりの人格を尊重した常に質の高いサービスを提供する。職員一人ひとりが夢と誇りを持って、楽しく生き活きと働ける魅力ある職場、遣り甲斐のある職場作りに全力で取り組む。

## ② 職員の研修教育・キャリアアップ制度の充実、資格取得への支援と福利厚生への推進

- ・新人職員・中堅職員・リーダーの各種研修の充実・強化、とりわけ新規学卒者・中途採用者に対するトレーナー制度の充実を図り、人材の定着と育成を図る。
- ・入社3年目の職員対象の研修を継続実施し、更に職員の退職予防の為に5年から10年目の中堅職員の育成プログラムと支援策の確立を図る。
- ・リフレッシュ休暇や連続休暇取得への対応策、脳ドック・人間ドックなどの健康管理への支援策の推進。結婚や出産等で退職した職員の職場復帰支援や、妊娠中の職員も安心して働け、出産後、職場復帰ができる職場環境や企業内保育などを整備する。
- ・退職年齢65歳と70歳までの継続雇用に伴い、介護の仕事を分業化・細分化し、75歳から80歳までも働くことができる勤務内容や雇用形態を整備する。

## ③ 健全で安全な経営と職員のモラル・マナー教育の推進

- ・職員一人ひとりに法人職員倫理行動基準の周知徹底を図り、職員のモラルの向上を図る。
- ・法人接遇委員会の充実・強化を図り、職員のモラルや接遇マナー教育を更に推進し、人権擁護・虐待防止への取り組みと職員の人材育成に全力で取り組む。

## ④ 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進、栄養部門の改革、在宅事業の強化

- ・法人に新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置すると同時に、各施設の感染症対策委員会・研修委員会等の各種委員会の取り組みを強化。介護事故ゼロへの取り組みと事故原因究明のための現場主義の徹底を図る。
- ・法人全体で科学的介護と穏やかな看取り介護の取り組みを推進する。介護の分業化の研究と看取り介護のマニュアル化・テキスト化を推進する。
- ・栄養部門は介護食や献立メニューの開発と配食サービスの拡充、クックチル調理法を使っての給食方法の導入を検討する。法人で食料品、介護用品などの一括購入・共同仕入れ、給食の下処理センターなどを検討する。
- ・デイサービスの作業マニュアル作成とサービスプログラムの開発、「座るデイから歩くデイへ」、ノルディックウォーク等の普及による健康寿命を延し、介護予防事業を推進する。デジタル技術を活用したデイトレ・ICTリハの考えも取り入れる。認知症デイサービスのプログラムの開発と介護予防・日常生活支援総合事業の推進。

## ⑤ 介護・保育・障害の福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る

- ・保育、介護記録の電子化、高齢者の見守りセンサーやベビーセンサーの活用、インカム無線機の導入など介護機器の積極的な導入、介護ロボットの活用、福祉現場の情報化・IT化を法人の全施設で推進する。
- ・労働人口の急激な減少に伴い、福祉現場でも生産性の向上を推進することが求められている。限られた職員配置の下、いかに効率的・生産的に仕事を回すかを模索し、サービスの向上・質の向上を図っていく。
- ・付加価値のあるサービス提供、買い手本位の発想を常に取り。利用者・家族が抱える問題点を探し出し、それに応えるサービスを提供する。





※座談会は、令和3年10月5日に感染症対策を取り開催しました。座談会の内容は、前号(68号)と本号の2回に分けて掲載しています。

# はるかぜ座談会

～施設における看取りケアの  
現状と今後の課題～

Vol.2  
(全2回)

座長：石川三義理事長  
メンバー：渡邊富美子（あしたかホーム介護課長）  
高橋勇次（あしたかホーム介護主任）  
山本久恵（伊豆中央ケアセンター課長）  
濱野絵里子（伊豆中央ケアセンター介護副主任）

石川 前号では、各施設の看取りケアの取り組み状況について、報告していただきました。今号では、看取りケアを進める上で、の家族との連携や理解について、皆さんの意見や感想をお聞きしたいと思います。

## 看取りケアに 家族の参加も

高橋 特養での看取りケアについて考えると、「してあげる看取りケア」という部分が大きいと感じています。実際は、これをすればもっと長生きすることが出来るのではないかという行為について、ご本人の意思はどうなんだろうと思うことがあります。施設で生活しているお年寄りは、どうしても在宅で生活しているお年寄りと比べると、家族との関わりが限定され、家族が看取りケアにどのくらい介入できるのかと不安に感じていると思います。身体的な介護は施設職員が行い、精神的な部分で普段から家族が遠慮なく一緒にいる環境、施設だけ自宅で見守るのと同じようにしていくには、もっと家族との関係を密



高橋勇次 介護主任

にしなればと思います。

石川 施設での生活に対して、家族は口出しをすることに遠慮があると思います。看取りケアの取り組みではそこが一番のネックになると思います。看取りケアに家族が参加することは大事なことです。実際は、お亡くなりになる数週間前くらいから家族に施設に来ていただき、職員と一緒に終末期ケアをされる状況です。

家族には施設入居時に終末期の看取りに関する意向についての確認をさせていただいておられますが、やはりその状況に直向きなと実感は湧かないと思います。最期を迎える場所が病院であれば、家族は安心感もあり、心の葛藤は少ないと思います。施設で最期を看取るということ、家族によっては少し葛藤があるのではないかと思います。

## 施設での看取りケアの実践 職員の人間力と介護力の均一化

こまめに家族と連携を図り、その方の変化を常に家族に知らせることで、家族は安心感も得られ、覚悟も出来ると思います。また、実際に施設で看取りケアを提供していることを、知っていた、たくことも、安心感に繋がると思います。

渡邊 施設で看取りケアを進めていく中で、やはり重要になるのは介護職員のスキルであると思います。特に、その職員の「人間力」が問われると思います。

看取りケアは、どれだけその方の顔を見ながら普段からケアを行っているかということであると思います。

濱野 同じ特養の介護職員であっても、看取りケアに関わったことのある職員、未経験の職員、キャリアが長くても看取りケアへの関りの少ない職員もいます。ユニットのリーダーに看取りケアを含め色々な経験があれば、部下の指導や教育が出来ますが、経験が少ない、または未経験のリーダーは看取りケアにどう対

処して良いか分からず、ユニット全体が手探り状態になってしまっています。一概に看取りケアと言ってもお年寄りの身体状況により段階的にケアする手法は異なります。お年寄りの体調は日々変化します。「今日は昨日と違うね」とその変化に気づくには、普段からどれだけその方のことを理解しているか、見ているかということになると思います。

**渡邊** 看取りケアをスタンダード化するためには、職員の気づき・気持ちの部分が大きなウエイトを占めると思います。普段の業務は問題なくこなせても、その方の変化に気づくには、本当にその方のことをよく見ている、知っている職員でないとい、見逃してしまう恐れがあると私も思います。それを職員に教育することは難しいと思います。看取りの経験がある中堅職員がいるユニットでは、若い職員に対する教育も良くできていると思います。

**石川** このコロナ禍で、ユニット間やフロア間の職員移動に制限があり、中堅職員の知識やスキルを学ぶ機会も限定されていると思います。それにより、施設間や施設内ユニット間の職員ス

キルに差が出て来ているのも現実問題としてあります。また、施設の家族面会にも制限があり、家族からの情報収集にも障害が生じることが心配されます。

**高橋** 職員にとって担当の方や家族とのコミュニケーションが良く取れていた方など、特別な思いがあった方の看取りケアの経験値は特別なものです。どれだけ特別な思いの経験を積んだかによって職員のスキルは変わって来ると思います。ただし、そういう特別な思いをさせて頂いたという感謝の気持ちを持たなければ、その経験も生きて来ません。その方の死の場面に立ち会えたこと、その時の家族の悲しみを肌で触れて感じる機会が看取りケアであり、その様な自分自身を成長させてもらえる機会は数少ないと思います。若い職員には、あえてその様な経験の場に入っていたいただきたい、私は思っています。

**石川** 施設に居ながらも在宅と同じのような看取りが実現できる、それは私たちの目指す理想の看取りケアの姿であると思います。そのために何が必要かを考えなければなりません。施設も自宅も同じです。家族も先のことは

どうして良いか分からないと思います。施設ではこういう看取りケアをしているということを示し、理解を得る必要があると思います。まだまだ十分ではありません。



石川三義 理事長

後悔しない介護の提供に向けて  
本人主体の終末ケアと  
リビングウィルの普及を

**濱野** 職員には、看取り期には通常時の介護以上にすることがあるということをお話します。その一つ一つのケアをその時期に適切に行えたかどうかで、自分に後悔が残ることになります。それが自分の糧になると思います。後悔しない介護をすることが身

に付くことで、その職員が指導する立場に立った時に役立つと考えています。人の最期は一度しかありません。その人の最期を大事にすること。その人らしい最期をお手伝いすることを心掛け、後輩には指導しています。  
**石川** 皆さんの意見をお伺いし、キャリアの若い介護職員に対し、看取りケアをどの様に教育していくかが課題であると感じました。人の最期のステージには様々な身体状況に変化が見られます。私たちはその変化に対応しながら介護を実践していますが、その変化に対する支援は私たちの身に染み付いており、文書化されていません。看取りケアは職人技の伝承の様なイメージです。更なるマニュアルの整備は不可欠であると思います。  
これからの人生百年時代を迎える中で、医療・福祉の現場においても人生会議が提言されています。これは、今後の治療・療養について、本人・家族と医療従事者があらかじめ本人の価値観・療養に対する意向などについて話し合う意思統一の場です。自分の最期について、医療や介護の現場職員に意向を伝えるというお年寄りや家族はまだま



だ少数です。今後は、リビングウ  
イル（事前指示書）をどこでどれ  
だけ普及させるかが大切であると  
思いました。

## これからの施設ケアの在り方 ——在宅生活の延長として

**高橋** 施設では、医療的な部分の  
施設で出来ること、出来ないこ  
とがあります。在宅での生活が  
困難となり、施設入居へという

時期には、認知症や状態低下が  
著しく、本人には意向確認がで  
きない方が多いです。終末期に  
過ごす場所は、医療か施設かの  
選択だけではなく、今まで一緒  
に生活してきた友人や職員など  
のみんなの中で生活を継続する  
という、生活面での意向は確認  
していません。その人のための  
看取りケアを提供するには、医  
療的な部分に生活を充実させる  
部分をプラスして行く必要があ  
ると思います。例えば、音楽を  
聴くことが趣味の方であれば、  
居室で好きな音楽を常に流して  
あげることも出来ます。

**石川** 北欧の福祉先進国では在宅  
から施設に入所するとそこが家  
となります。施設の部屋は自宅

と同じであり、家の生活の継続  
になるという発想です。日本は  
在宅から施設に入ると、そこで  
在宅と遮断されてしまうように  
感じていきます。施設の居室を自  
分の家の様に写真を飾り、自分  
の家具を置いたりすることは少  
なく、何十年と生活してきた自  
分自身の生活スタイルが途切れ  
てしまいます。無機質な部屋で  
天井を仰いで生活をし、ケアを  
受けることが終末期ケアではあ  
りません。

**山本** 施設入居時に、自宅で使用  
していた家具や嫁入り道具等の  
持ち込みを案内しても、家族は  
遠慮して新しい家具を購入され  
てくる方が多い状況です。まだ  
まだ施設に対する遠慮意識があ  
るのかなと思います。在宅で  
の生活の継続を施設に持ち込む  
ことが必要です。それは家で使  
っていたものを持ち込む、大事  
なものを部屋に飾る、家ではど  
んな音楽を聴いていたかなど、  
そこから施設が在宅環境での看  
取りをすることに繋がって来る  
と思います。それを私たちはも  
つともつと働きかけ、取り入れ  
ていく必要があると思います。

**渡邊** その人が人生の中で、何を  
一番大切にしてきたのか、そう

いう情報収集が十分にされてい  
ません。施設の部屋は限られた  
空間ですからすべてを持ち込む  
ことは出来ません。その中でど  
ういう風に生活する空間作りを  
していくかは、職員のコミュニ  
ケーション能力に左右されてし  
まいます。これからの看取りケ  
アにはその部分が必要であると  
思います。終末期だから特別な  
のではなく、入居された時から  
施設における看取りケアはスタ  
ートしていると思います。普段  
からその人らしい人生のお手伝  
いが出来るよう、私たちは努め  
て行きたいです。

## 看取り介護の見える化を 家族と共に

**石川** 良い終末期のケアを施設で  
提供するには、介護職・看護職  
だけではなく、食事の提供に関  
し栄養・調理職の関りも大切で  
す。あしたかホームでも年間何  
名かの方が看取り介護でお亡く  
なりになります。家族に居室内  
や研修室に泊まっていたくこと  
もありました。家族が夜間宿泊  
して看取り介護に関わる中で、  
「職員に本当に熱心に一生懸命

に介護をしていただいた。」若  
い職員がお年寄りの看取り介護  
に一生懸命に取り組んでいたこ  
とに感動をしました。うれしく  
思いました。」と感想をいただ  
きます。看取り介護は一般の方  
にはなかなか見えないことです。  
家族と一緒に泊まって最期を看  
ることで、看取り介護の見える  
化に繋がると思います。

施設では出来る限り家族に頻  
回な面会や最期の数日は立ち合  
いをお願いし、働いている職員  
の活動についても理解と得て評  
価をしていただくことも大事で  
あると感じました。

私たちは、これからもその人  
らしい人生のお手伝い出来る  
よう、気を引き締めて一人ひと  
りのお年寄りに向かい合いたい  
と思います。

本日は、お忙しい中、貴重な  
ご意見をいただき、ありがとう  
ございました。  
以上で、座談会は終了いたし  
ます。



## 令和4年度 社会福祉法人春風会 新規学卒採用予定者入社内定式

### 明日の法人を担う新たな仲間たち

春風会では昨年12月12日(土)に、令和4年4月1日付け新規学卒採用予定者の入社内定式を行いました。今年度の新規学卒内定者は11名(令和4年1月1日現在)です。

内定式では、内定者の自己紹介のほか、先輩職員2名から内定者へのメッセージ、先輩職員を交えてのディスカッションが行われました。約2年にわたる新型コロナウイルスの感染拡大の影響に



より学校の講義や授業などがオンラインで行われている状況のもと、対面方式で開催された内定式では、内定者全員が初めて顔を合わせる場でもあり、お互いの健康を称え合う一幕もありました。法人職員一同、4月から皆さんと一緒に仕事ができることを、心待ちにしております。

あまぎ認定こども園では、毎年十一月の最終土曜日に生活発表会を行っています。園では十月初めに運動会を行い、それが終わるとすぐに発表会に向けて準備を始めます。しかし、今年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市内全園に「登園自粛要請」が出ていたため、運動会は二週間延期となり、発表会の準備期間も短くなってしまいました。職員は短い準備期間や子ども達の負担、保護者の満足度から感染対策といった様々な要素を考慮し、プログラムや練習計画を決定しました。そして、十一月二十七日の本番です。昨年引き続き、クラス別、



そして、保護者は各家庭二名まで、さらに扉や窓を常時開放しての実施です。プログラムは年少組・年中組が合奏と劇(オペレッタ)、年長組がそれにダンスが加わったものです。十一月末は感染状況が落ち着いていたため、当初はマスクをして演技する予定でしたがマスクなしでステージに上げることができました。終了後のアンケートでは、「やはり子ども達の合唱が聴きたかった」との声もありましたが、「コロナ禍の中で、やってもらっただけでありがたいです」との声も数多くいただきました。また、ほとんどの保護者が子ども達の成長を感じてくださったという結果でした。





# かわいい子どもを見れて楽しい！ 元気もらった！

## 沼津市立高尾園

高尾園と沢田小学校は、同じ地域として互いを知るため、毎年交流会を開いています。

平時でしたら、高尾園の畑や集会所または、小学校の体育館を会場として交流をしていましたが、今年は、コロナ禍の為にモート（ZOOM）交流となりました。その様子について報告させていただきます。



交流会の特徴として、対象学年が三年・四年・五年と三つの学年が毎年、各一回ずつ高尾園と交流を行います。そのため、子供たちは同地域内の高尾園は、「どんな所なのか？」「どんな人がいるんだろう？」「どう話していけばよいのだろう？」と福祉施設の存在を知りつつ、社会体験の一環としての機会ができています。

逆に高尾園の入所者は、自分たちの学生時代を思い出しつつ、子供たちの成長を見て、パワーをもらう双方にはプラスになります。引き続き、続けれられています。

交流の内容ですが、三年生「学

校にて歌・ゲーム・触れ合う」、四年生「高尾園にて入所者が自立の一環として畑で育てたサツマイモの芋掘り体験」、五年生「高尾園にて組体操・クイズ・一芸披露など」となっています。

近年、早い歳の段階で英語以外にIT、パソコンに触れる教育方針が推進されています。コロナ禍であり、その一部としてリモート（ZOOM）という形で今回、五年生の交流会を一月に二日間に渡り行いました。

はじめ、入所者はビデオ映像ではなく、生視聴でできるリモートの機能に驚かれましたが、対面で触れ合う時と異なると、相手先のカメラが動くことで臨場感が増し、声を出したり拍手をしたり盛り上がる反応が多々ありました。最後に入所者さん宛に寅の絵入り年賀状のお礼と今回の五年生が三年生の時にくれた贈り物を見せると「あー知ってる！」「など」と離れていても、良き雰囲気にも包まれ素敵な交流会となりました。



# 久しぶりのバザー参加

## もくせい苑



早二年、コロナ禍でもくせい苑でのお楽しみ行事も中止、各種イベントや即売会に参加する事も無くなり、製品販売の機会が減少する状況が続いていました。

昨年の六月以降コロナワクチンの二回目の予防接種を済ませた方々も増え、第五波の感染者数も徐々に減少し、九月末で全国に発出されていた緊急事態宣言とまん延防止等重点措置も解除されました。

この様な状況の中で、伊豆地域への交流人口も増え、各観光施設等ではイベントの再開を契機に経済活動が活発になって来ました。

もくせい苑でも、約二年ぶりに障がいのある人の働く場を繋げてくれている団体オールしずおかベストコミュニティからの

依頼を受け、伊豆ゲートウェイ函南にて農福連携のバザーに参加を致しました。

今回は、職員のみでの販売、もくせい苑で収穫したさつま芋で焼き芋販売、また、自然薯とネギも販売、更に、笑顔の食材市に協力を頂いている地元（株）土屋建設さんの農場で収穫した「ろっぼう野菜」の大根・ゴボウ・ロマネスコ・赤大根等々も追加しました。そしてもくせい苑の得意とする縫製品の販売では多くの方々にご購入を頂きました。

久しぶりの即売会と十一月の月中一時支援も重なり、利用者さん達もゲートウェイ函南に見学を訪れ、久しぶりに楽しい一日を過ごすことが出来ました。





折り紙名人



デイサービスセンターみはるの丘の作品コーナーや廊下の壁面には折り紙で作った数々の素敵な作品が飾られています。こちらの作品は、一人の利用者様が作られたものです。

その方のお名前は、芹澤實枝（せりざわじつえ）様です。

平成二十八年から当デイサービスをj利用されており、いつも明るく元気で社交的な方です。

浮島の石川地区で折り紙教室に参加していて、講師もすることもあり、デイサービスでも他利用者様と折り紙を教えあったりしています。

ご本人様へインタビューをしました。

**Q** 折り紙はいつから始めましたか？

**A** 八十歳過ぎてから。

**Q** 折り紙を始めたきっかけは何ですか？

**A** 近所の人が病気をして折り紙を始めたから元気になったと聞いて「転ばぬ先の杖だ！」と思い始めた。最初は石川地区の有志が折り紙教室を始めると話があったので即参加を希望した。当初は畑仕事もやりながらだったから2ヶ月に1回だったけど、一生懸命に覚えたんだよ。

**Q** 折り紙を始めて嬉しかった事は何ですか？

**A** 折り紙を12枚組み合わせて作るくす玉を作って完成した時はすごく嬉しかった。その後は自分で折り方を考えて応用したくす玉を作った時「すごいね！」と褒められて嬉しかった。

**Q** これから挑戦したいことはありますか？

**A** 折り紙ではないけど、トイレックトペーパーの芯を使ったクジャクを作りたい。



利 用 者 の 紹 介

新村久登豪快伝説

はらデイサービスセンターでご紹介したのは、「ホワイトラーメン」の生みの親、沼津でラーメン屋を営んでこられた「新村久登様」です。

新村様は強面だけど、明るく、歯切れのいいおしゃべりで、その場をあっという間に楽しい雰囲気にして下さいます。数々の武勇伝をお持ちですが、その中から一つご紹介します。

銀幕の大スターと関係が！

東京で飲食店を営んでいたお母様を手伝う、若き頃の新村青年。店が撮影所の近くにあって、著名人に愛されるお店でした。長嶋茂雄・大友工・田宮二郎・渡哲也：中でも、あの大スター石原裕次郎は、とても気さくでやんちゃだった久登様と意気投合し、かわいがってくれたそう。

車で海に行き一緒にサーフィンをしたり、裕次郎のヨットに乗せてもらった事もあったそうです。そんな人たちに囲まれて、俳優を目指し、オーディションを受けた新村青年。監督に、訛りと活舌の悪さを指摘され、あえなく映画俳優の道は閉ざされたのです。も

し合格していたら、裕次郎の映画と一緒に出ていたかもしれせんね。裕次郎との写真は、紛失してしまつたとのことでお見せできず残念です。

他にも三浦雄一郎とスキーをした話や、ラーメン屋時代の話と、まだまだたくさんさんの伝説をお持ちです。話を聞くと、彼の人生の1コマに触れることができ、ドラマを観ているように、楽しい時間が過ぎていきます。これが新村様の魅力なのだと思います。





## コロナに屈しない 理容師さんとの 繋がり



沼津市立高尾園では、新型コロナウイルス感染症の影響で、入所者さんへの余暇充実等の為のボランティアさんの訪問を長期にわたりお断りしております。しかしながら、理美容の奉仕活動に関しては中止することができず、感染対策を十分にとった上で活動して参りました。今回は、コロナ禍に向ける理容奉仕との繋がりについて報告致します。

高尾園の入所者さんの方のために理美容として市内の理容師さん・美容師さんが毎月、理容（容姿を整える）、美容（容姿を美しくする）を目的に、一人一人に似合う髪型に散髪し、整えて頂いています。入所者さんからは「スッキリした」「いつも会話を楽しくみしている」など声を頂いています。

この理容奉仕と高尾園との関係は、四十年ほどの付き合いが続いており、今でも欠かせない活動となっております。

今回は理容奉仕の活動をされている方の一人、東椎路で理容室「ヘアースタジオ・マジック」を営む菅野清二様についてご紹介したいと思います。

菅野様は、過去に理容師・美容師がその技術を競う世界大会で第六位になった成績を持つ実力者であり、本年度の沼津市技能功労者に選ばれています。沼津広報誌十二月号でも掲載されていますのでご覧いただければと思います。

また、菅野様と高尾園の関りについては、以前、高尾園に在籍していた入所者さんがお店のメンバーズカードを製作、受注しておりました。

今年、最新の名刺作成の依頼がありました。その入所者さんは既に退所されており、法人内の伊豆の国市にある就労継続支援B型事業所もくせい苑で作成し、お届けすることができました。助けられただけではなく、理美容さんの力になれたことを嬉しく思っています。



とができました。二日目は足りなくなるほどでした。笑顔で「この前のお弁当おいしかったよ。」と言う声が聞かれ、再開の嬉しさがこみ上げてきました。

今後も、新型コロナウイルス感染症状況を確認しながら、以前のようにもこども食堂が再開できることを願っています。地域のボランティアの皆様や伊豆総合高校生徒の皆様には寒いなか協力をして頂きありがとうございます。

北狩野ケアセンターは、令和二年三月から新型コロナウイルス感染症の影響により休止していましたが、こども食堂を、昨年十二月四日、十八日の二日間、お弁当配布というかたちで実施しました。食材や小物など各団体からたくさんのお弁当が寄せられており、これを使用して食事ができないなかで、お弁当の配布としました。二日間で二百食のお弁当を配布。約二年ぶりの再開となりました。多くの子供達や、保護者が来園し配布するこ



就労継続支援  
B型事業所  
プラム

## 地域をつなぐ“ライ麦ストロー”になあれ

「密になっちゃいけないんだって」「ライ麦もコロナと同じだね～」

種まきを終えた帰りの車中、利用者のこんな会話に、思わず笑みがこぼれました。

天城連山の大自然の中に、利用者の屈託のない笑顔と、元気な声が響き渡る。誇らしげなその表情に、私



たち職員の喜びも重なります。

昨年度、試行的に行ったライ麦ストローの商品化。種まきから、刈り入れ、その茎を使ってストローに。出来上がったストローは、すべて“トヨタカローラ静岡”様にご購入いただき、手ごたえのある実績となりました。

今年度は更に、地域活性化に取り組む地域団体の「はちくぼ会」、静岡県、伊豆市、オールしずおかベストコミュニティの支援を受け、昨年度の5倍の面積の農地にライ麦の種を撒きました。

環境に配慮したライ麦ストローを、商品化していく過程を利用者と共に楽しみ、SDGsへの取り組みや伊豆市における共生社会実現の足がかりになればと思います。

踏めば踏むほど育つライ麦のように、たくましくなっていく利用者にエールを送りながら・・・。

伊豆中央  
ケアセンター

## 鈴木昭子副施設長 県知事表彰受賞

令和3年11月3日文化の日に、静岡県庁で授賞式が行われた静岡県知事表彰は、様々な分野で静岡県の発展に貢献した人たちに送られるものです。

今年度は個人43名、団体7組が選ばれ、伊豆中央ケアセンターの鈴木副施設長は長年、高齢者の介護に尽力するなど、社会福祉の増進に寄与されたことにより、社会福祉の部門で県知事表彰を受賞されました。



●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム  
〒410-0302 沼津市東権路1742-1  
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター  
〒410-2402 伊豆市大野304  
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297

●特別養護老人ホームめぐもりの里  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29  
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島  
〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家  
〒410-0302 沼津市東権路1742-1  
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429  
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL・FAX(0558)76-6755

●原高齢者福祉センター  
〒410-0312 沼津市原1200-3  
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)  
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

●天城放課後児童クラブ  
〒410-3213 伊豆市青羽47  
TEL(0558)87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ  
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL(0558)83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園  
〒410-0001 沼津市足高156-1  
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723

●ケアハウスはるかぜ  
〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383

●小規模多機能施設 北狩野ケアセンター  
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地  
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか  
小規模多機能型居宅介護支援事業所  
〒410-0302 沼津市東権路1639-1  
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと  
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9  
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299

●障害サービス ケアホーム などの家  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437  
TEL(0558)77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆  
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293  
TEL(0558)77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬  
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園  
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201

●あまぎデイサービス(デイサービス一般型)  
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)  
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201

●プラムカフェ  
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター  
〒410-0874 沼津市松長12-3  
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター  
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ  
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302

●なかいず認定こども園  
〒410-2505 伊豆市八幡282-1  
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811

●はら居宅介護支援事業所  
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11  
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334